

# 1 いち 2 にー 6 ろく 7 なな 芦ノ湖夏まつりウィーク 7月31日~8月5日 (花火大会 7/31~8/5日午後8時~)

## 7月31日(水) 湖水祭



### 湖水祭の起源

遠く奈良時代、芦ノ湖が鏡ヶ池と呼ばれていた頃のこと、夜になると九つの頭をもった恐ろしい毒龍が湖水から現われ、人々に危害を加えました。村人は毒龍の機嫌を損ねて水害や病気の流行ることをたいへん恐れていました。

このことを知った萬巻上人は、湖水に壇を設け、毒龍の心が和らぐように寝食を忘れて祈り続けました。上人と毒龍の闘いが始まると湖は真っ黒な雲に覆われ、激雷が走り、竜巻がうねり、吹き飛ばされた大木がぶつかり合い、見上げるほどの高波が何度も何度も打ち寄せました。

三日三晩たった朝のこと、あれほど荒れ狂った湖が鏡のように静かになりました。すると、上人の前に毒龍が現われ、「宝珠」「錫杖」「水瓶」を捧げて今までの非を詫言、許しを乞うのでした。上人は毒龍を誅め湖中の逆杉につなぐと、たちまち「龍神」として生まれ変わり、湖水の守り神となりました。それからは、九頭龍明神として手厚くおまつりされ、毎年、箱根神社例大祭の前日七月三十一日夜に湖水祭が執り行われ、湖心にお供物(三升三合三勺の赤飯)が献げられています。

湖水祭は例大祭の宵宮祭として、清祓式(湖水のお祓い) 献灯祭に続き箱根神社の本殿東側に鎮座する九頭龍神社新宮で行われます。お祭りは次の神事へと進み、九頭龍明神に捧げる御供(三升三合三勺の赤飯)を積み宮司が一人乗る御供船は、乗舟・御伴舟、二艘の見送りを受けて、夕闇の中、湖心に進みます。御供が捧げられる頃、花火と灯笼で彩られます



湖水祭御供行列



湖水祭りの花火

## 8月1日(木)1267 箱根神社例大祭



御鎮座1267年を迎える箱根神社の御祭神箱根大神の宏大無辺な御神徳に報謝する、年に一度の大祭です。



箱根延年



湯立獅子舞

## 8月3日(土) 駒形神社例祭



駒ヶ岳の地主神を祀る駒形神社は、悠久の昔の山岳信仰に遡ると云われます。引続き「箱根七福神 毘沙門天社」の例祭が斎行されます。



子供神輿渡御

## 8月2・3日 箱根園サマーナイトフェスタ



箱根園で連夜行われる花火大会で色々なイベントが参加して楽しい一時を過ごせます。

## 8月2日(金) 御神幸祭「鳳輦渡御」



御神幸祭とは、御祭神が御鳳輦にお乗りになって御巡行され、町民の安らかな様をご覧になるお祭りで、箱根神社から元箱根の里、そして湖上を渡り箱根関所、箱根の里内を巡り駒形神社へと古式ゆかしく列が進みます。



湖水渡御

## 8月4日(日) 湖尻龍神祭



御神火点火式

湖水祭に続く芦ノ湖の守護神・九頭龍明神のお祭りで、九頭龍神社本宮そして湖畔での神事に続いて花火大会が催されます。



龍神祭花火

## 8月5日(月) 鳥居焼まつり



### 鳥居焼まつりの起り

箱根権現の御手洗池である芦ノ湖の湖水を貧しさのため汚した里人は湖水の龍神の怒りにふれ、恐ろしい疫病に悩まされました。困りきった里人は龍神の怒りを鎮めるため、その昔、男女龍が姿を現したという獅子木(今も二本、湖水に立っている)近くに鳥居を組み、荒湯駒形権現の例祭の夜、この鳥居を焚いて湖水に映る火影を龍神に捧げました。

今でも駒形神社での神事に続き、湖水に浮かぶ大鳥居二基に点火し、大鳥居、花火、灯笼の火影が湖水を美しく彩ります。



献火行列



2基の鳥居に点火



箱根神社大神輿渡御

### 付近の見所



森のふれあい館 館内はファンタジーな森の世界を生みだし、また工作室はこどもに人気があります。



箱根駅伝ミュージアム 日本初の箱根駅伝をモチーフにしたミュージアムです。箱根駅伝の歴史や楽しさを実感できます。



箱根関所・資料館 旧箱根関所を完全復元。大船所には往時の参入の形、真神跡には往時の資料が展示されています。



箱根園・湖成川美術館 現代の日本画を代表する平山郁夫、山本瓦人などの他匠の名作・絵画を展示してあります。



玉村豊男ライフアートミュージアム 生活のテーマを中心に版画や水彩画の作品を展示。ラ・テラツァ芦ノ湖は隣接するレストランです。



箱根神社宝物殿 箱根神社に伝わる宝刀・絵巻・彫刻・祭具・古文書等、重要資料を各庫収蔵してあります。



箱根園水族館 大海から湖まで世界中の魚たちが大集合。楽しいイベントも催されます。



元箱根石仏・石塔群 国の重要文化財で箱根池畔にあり、いずれも鎌倉時代の作。写真は六道地藏です。



箱根ドールハウス美術館 調度品の一つまで精巧に作られたウィンテージなミニチュアの世界が展開されています。